



発行者
笠間市社協中央支部
編集
中央支部広報委員会
印刷
クリエイティブサンエイ

平成二十七年代表議員会開催 心づくしの活動方針決する

去る四月二十六日(日) 中央支部の代議員会が開催された。
支部長の挨拶に続いて来賓あいさつ及び紹介があった。
松原秀和委員(元支部長)が議長を務め、平成二十六年度の事業、会計報告、続いて平成二十七年年度の事業計画並びに予算が事務局より提案され承認された。

◎活動の重点目標と事業内容

- (一)活動資金の確保
 - 会員会費の募集(七月)
 - 福祉バザー(十月)
 - 高齢者福祉活動の推進
 - しあわせサロン散策
 - (五月二班に分けて実施)
- (二)高齢者福祉活動の推進
 - しあわせサロン会食会(手打ちそば十二月)
 - 配食サービス(毎月一回、十二月を除く)
 - 支部内高齢者親善交流会(輪投、グランドゴルフ)
 - 敬老会の支援協力



- (三)地域福祉活動の推進
 - 県立友部特別支援学校・福祉センター「たけのこ」の活動を支援
- (四)三世代交流の推進
 - 各行政区で実施される三世代交流会の支援
- (五)研修会の実施
 - 支部委員・福祉推進員・むつみ会員を対象とした視察研修
 - 女性部員の視察研修
- (六)広報活動の推進
 - 支部だより年三回発行

平成二十七年代表議員会 支部役員紹介



支部長
鈴木 征夫(再任)



副支部長
井坂フヂエ(再任)



副支部長
荒川 隆夫(再任)



副支部長
入江 廣(新任)



会計
大野 宏治(新任)



会計監査
高野 康司(新任)



会計監査
飯村 洋司(新任)

思い出させてくれた
予科練の時代を

友部栄町 藤枝 義忠

テレビ・新聞等で話題になっていた、戦後七十年の節目に計画された、阿見町の予科練平和記念館見学について、予科練習生として経験された当時の実情を参加者に報告していただければとの支部からの話もあり、少しでも役に立てればと考え参加させていただきました。
ただマイクを通して報告するよりも、少しでも役に立てればと考え一寸した資料を作り、断片的に話をしたところでした。果たして理解していただけたかとなると疑問に思っているところです。
若い十五才当時を思い出し、元気を取り戻すことが出来たことに感謝し、支部役員の皆様にも感謝申し上げます。

いあいね

支部長 鈴木 征夫

私は、四月二十六日の代議員会に於いて再び支部長に選任されました。
よろしくお願いを申し上げます。
更に、今回の役員改選では、三人の新任の方を迎えました。皆さん支部活動に理解が深く協力的な方で、今後の支部運営に大きな期待が持てます。
おわりに、支部役員一致協力して支部活動向上に取り組む所存ですので、皆様方のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成26年度 決算報告書

【収入の部】			単位：円
科目	決算額	摘要	
前年度繰越金	345,761		
会員会費還元金	914,250	市社協より	
助成金	141,425	市社協より 地域ケアシステム 50,000 福祉コミュニティ 91,425	
バザー売上金	560,015	ふるさと祭り	
雑収入	104,276	配食関係他	
合計	2,065,727		

【支出の部】			単位：円
科目	決算額	摘要	
会議費	45,891	代議員会・支部委員会	
事務局費	21,745		
事務通信費	20,468	事務用品	
事業費	1,427,054	会費地区還元金・グランドゴルフ・輪投げ 配食サービス・しあわせサロン 支部だより発行	
バザー開催費	143,578	バザー開催諸経費	
研修費	100,972	支部委員・福祉推進員・女性部	
合計	1,759,708		

平成27年度 予算書

【収入の部】			単位：円
科目	予算額	摘要	
前年度繰越金	306,019		
会員会費還元金	910,000	市社協より	
助成金	140,000	市社協より 福祉コミュニティ 50,000 広報助成金 90,000	
バザー売上金	519,000		
雑収入	104,981	配食関係他	
合計	1,980,000		

【支出の部】			単位：円
科目	予算額	摘要	
会議費	50,000	代議委員会・支部委員会	
事務局費	30,000		
事務通信費	20,000	事務用品	
事業費	1,530,000	会費地区還元金・グランドゴルフ・輪投げ 配食サービス・しあわせサロン 支部だより発行	
バザー開催費	150,000	バザー開催諸経費	
研修費	130,000	支部委員・福祉推進員・女性部	
予備費	70,000		
合計	1,980,000		

平成27年度 支部委員・福祉推進員名簿

支 部 長	鈴木 征夫	(幸 町)	推 進 員	高野 康司	(桜 町)
副支部長	入江 廣	(大沢中3)	同	横田 房子	(当の越1)
同	荒川 隆夫	(南 町)	同	大野 悦子	同
同	井坂フヂエ	(青葉町)	同	松原 四郎	同
会 計	大野 宏治	(当の越1)	同	安達 洋子	同
会計監査	高野 康司	(桜 町)	同	深澤 恭子	同
同	飯村 洋司	(東町3)	同	青木 久雄	(当の越2)
支部委員	石井 政義	(東町1)	同	三宅 正次	同
同	染谷 仁一	(東町2)	同	今橋 佳幸	同
同	飯村 洋司	(東町3)	同	中島美知代	同
同	藤枝 正一	(東町4)	同	長谷川悦子	同
同	鶴田 浩一	(仲 町)	同	秋山 文江	(友部栄町)
同	荒川 隆夫	(南 町)	同	金澤 寛美	同
同	須藤 保男	(西町1)	同	永堀 昌子	同
同	赤尾杉友一	(西町2)	同	鈴木ちよ子	同
同	福島 和彦	(桜 町)	同	岡田 妙子	同
同	大野 宏治	(当の越1)	同	瀬畑 洋子	(緑町1)
同	大平 博	(当の越2)	同	細谷 久子	同
同	飯田 雅博	(友部栄町)	同	海野 二郎	同
同	村上 利夫	(緑町1)	同	大沼裕見子	(緑町2)
同	石川 満	(緑町2)	同	岩波喜代美	同
同	荒張 晴夫	(緑町3)	同	若菜眞知子	同
同	菊池 康平	(美原団地)	同	鬼沢 幸江	同
同	尾形 夏海	(四つ葉荘)	同	小沼 英子	同
同	梅原 一樹	(青葉町)	同	大木理絵子	(緑町3)
同	中村 誠	(大沢中1)	同	川又 和子	同
同	福島 博	(大沢中2)	同	野村ふぢ子	同
同	入江 廣	(大沢中3)	同	佐久間紀枝子	同
同	渡辺 勝男	(幸 町)	同	大畠 愛子	(美原団地)
推 進 員	白井 芳夫	(東町1)	同	川上恵美子	同
同	富田 寿夫	同	同	中澤やす子	同
同	柳橋 賢寿	同	同	加藤美智子	同
同	小林 信昭	同	同	大塚 松寿	同
同	山本千代子	同	同	長堀 胤美	(青葉町)
同	鈴木 しん	(東町2)	同	石川 武次	同
同	青木 重子	同	同	糠森 稔	同
同	友部 敏江	同	同	木村 昌登	同
同	深澤 正弘	同	同	大月 成子	同
同	佐藤 治	(東町3)	同	櫻井 新司	同
同	松山はる子	同	同	阿内 勉	同
同	寺嶋 幸雄	同	同	渡辺 博	同
同	菊池 悦子	同	同	井坂フヂエ	同
同	山田 満	(東町4)	同	櫻井 優子	同
同	高橋 静江	同	同	水越 健二	(大沢中1)
同	藤枝 昭司	同	同	稲毛 邦一	同
同	桑野 勝雄	同	同	田口 晴雄	同
同	仲野 博美	同	同	根本 良美	同
同	久米三代子	同	同	渡邊 直樹	同
同	山川 喜蔵	同	同	稲毛 トク	同
同	伊橋 理代	同	同	中村美千代	同
同	荒川 昌之	(仲 町)	同	水越 愛子	同
同	小林 廣	同	同	菊地 操	同
同	村上さよ子	(南 町)	同	高屋まさい	同
同	島川 智子	同	同	多川英久雄	(大沢中2)
同	鷺沼三枝子	同	同	仁平たつ子	同
同	坂本 直美	同	同	塩畑 勝之	同
同	福田 紀子	同	同	飯塚光一郎	同
同	荒川 隆夫	同	同	鈴木 幸一	同
同	須藤 康子	(西町1)	同	鈴木 昌子	(大沢中3)
同	桜井三枝子	同	同	石川 和彦	同
同	神崎 昭子	(西町2)	同	中澤 まさ	同
同	横倉 きん	同	同	石川真理子	同
同	深作 信人	(桜 町)	同	片岡 利子	(幸 町)
同	高安 たみ	同	同	磯 悟道	同
同	石塚 伸江	同	同	池田 正巳	同
同	菅谷 正子	同	同	一柳 克平	同
同	佐久間 豊	同	同	中根 満	同
同	田口 唯志	同	同	鈴木 征夫	同
同	川崎 晴男	同			

女性部 総 会

女性部長 井坂フヂエ

四月二十六日、代議員会に続き、女性部総会が開催されました。支部事業推進への協力という女性部の二十六年度の活動も、皆様が早く、引き受けてくださり、行うことが出来ました。

本年度は、支部役員の改選に伴い女性部役員も改選され、新役員でスタートすることになりました。配食にはじまり、しあわせサロンバザーへの協力等、二十七年年度の事業を皆で確認しました。



毎月、むつみ会の方と一緒に、「お変わりありませんか」と声をかけお届けするお弁当、女性部の皆さんが知恵を出して、献立から調理までたずさわり、地域の方々

に感謝の声を頂いております。これからスタートする様々な支部事業推進の為、女性部員も協力していきたいと思えます。研修・交流をはかりながら、地域の見守り役として女性部活動を推進してまいります。

女性部役員紹介

部 長



井坂フヂエ（再任）

副部長



櫻井 優子（再任）

副部長



渡辺 秀子（新任）

副部長



福田 紀子（新任）

東京歴史散歩

桜町 福島 和彦

平成二十七年五月二十九日（金）、中央支部社協の役員研修として、小石川後楽園、湯島聖堂、神田神社を訪ねた。

小石川後楽園は、寛永六年（二六二九）、江戸幕府三代将軍徳川家光から水戸藩主徳川頼房に賜った二十一万平方メートルに及ぶ上屋敷内の庭園である。二代藩主光圀は明国遣臣朱舜水の意見を容れ和漢の古典により、名勝や折衷式の建物手法を取り入れた。後楽園の名は、中国の范仲淹（はんちゅうえん）『岳陽樓記』の「天下の憂いに先だつて憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ」から名づけられた。当時の水戸藩の気風がうかがい知るところである。

昼食は神田神社内にある明神会館で、いろいろおかずがあり、ボリュームあるものであった。昼食後、天



小石川後楽園

気予報どおり雨が降り始めた。雨の中、歩いてすぐのところ湯島聖堂があった。

湯島聖堂は、江戸幕府の教育施設である。敷地の一角が昌平坂に面していたので、昌平坂学問所、あるいは昌平黌（ちやうへい）と称された。元禄三年、五

代将軍徳川綱吉は、湯島に先聖殿（孔子廟）を移転し、湯島聖堂と命名した。壮麗な聖殿は幕府によって建てられ、諸藩主からも典籍・祭器の供献があり、綱吉筆の「大成殿」の扁額（へんがく）が掲げられている。この地の橋名、坂名を魯の昌平郷に因んで改称した。寛永七年（一六三二）から延宝八年（一六八二）の五十一年間の入門者は三百三十一名で、平均すると毎年入門者は五、六名、毎年の在学者は三十二、三名である。エリートたちが学んでいたようである。神田神社は、江戸時代までは神田明神と呼ばれていた。古くは江戸芝崎村の鎮守社である。江戸城大拡張に伴い、慶長八年（一六〇三）ころに、神田橋御門内から駿河台に移され、さらに元和二年（一六一六）現在地に移された。江戸城の堀から日本橋に流れる川を境に、その北東を神田明神に、西南を山王神社の氏子とすると、『慶長見聞録』にある。神田明神の氏子は、神田・日本橋・秋葉原・大手町・丸の内・下谷に及び、神田祭の神輿の担ぎ手の多さにびっくりである。笠間市福祉協議会、友部公民館、講師の南秀利氏の労に感謝申し上げる。

あ と が き

梅雨の季節を迎えました。四月に中央支部代議員会女性部総会を受けて、今年度の事業が始まりました。その模様を、「中央支部だより」103号としてお届けいたします。支部会員の皆様のご協力に感謝いたします。

広報委員

南 秀利

横堀義一

大野宏治

菊地 操

谷中久子